

---

# 虚構

ミズキシホ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

虚構

### 【Nコード】

N5342C

### 【作者名】

ミズキシホ

### 【あらすじ】

あなたの周りにもいるかも……。

その女はいつも見ている。

ある日、

何気なく窓から外を見たら、

向かいのマンションのその女が目に入った。

私の部屋は8階。

その女の部屋は6階。

その女は、

窓辺に座り、

ただひたすら熱心に何かを見つめている。

視線の先を辿ると、

私の部屋の数階下のようにだ。

女の視線からいって、

4階か3階あたりだろうか。

何をそんなに熱心に見ているのだろう、

と一瞬興味は湧いたが、

急いで出かけなければならぬことに気付いて、

私は窓辺から離れた。

部屋を一步出た途端私は、

駅までの暑い道のりにウンザリし、

暑苦しい満員電車で辟易し、  
会社では息をつく暇もないような雑事に追われて、  
あの女のことなどすっかり忘れてしまっていた。

会社が引けて、  
軽く一杯のつもりが、  
何杯もになり、  
深夜、  
真つ暗な玄関へ入った瞬間、  
私はその女のことを思い出した。

そして、  
着替えもせずに、  
なかば無意識で、  
窓辺へと寄る。

あの女の部屋は……。  
目を凝らして見ると、  
女はそこにいた。

カーテンもせずに、  
明かりもつけずに、  
女はそこにいた。

だんだんと暗さに目が慣れてくる。

女は、  
私が出かける前と同じ状態でそこに存在した。

私はどのくらい窓辺に立ち尽くしていたのだろう。

女が立ち上がった。

女はカーテンを閉めた。

私はハッと我に返った。

なんだろう、あの女……。

まあ、他人事だし。

さて、眠ろう……。

翌朝、

会社は休みだし、

昨夜は深酒をしたはずなのに、  
朝早くに目が覚めた。

そして私の足は、

自然と窓辺へと向かっていた。

女は……。

女はそこにいた。

よし、今日は休みだし予定もないから、  
じっくり女を観察してやろう。

椅子を持ってきて窓辺に腰を据える。

女は、  
相変わらず、  
一心に何かを見つめている。

女は、  
時折立ち上がって、数分、私の視界から消えるほかは、  
ずっと窓辺に座っている。  
そして、見ている。

私は、そんな女を見ている。

女が立ち上がった。  
そして、  
カーテンを閉める。

ギョツとした。  
もうそんな時間なのか。  
時計を見ると、深夜の2時だ。

朝からこんな時間まで、  
窓辺に座り込み、  
ただ女を見ていたことになる。

バカバカしい……！  
私は自嘲した。

眠ろう……。  
明日は会社だ……。

翌朝。

目覚めたわたしは、  
まっすぐ、  
窓辺へと向かう。

女はすでにそこにいた。

あと5分、

あと1分……。

女になんの動きがあるわけでもなく、  
女はただひたすら何かを見ているだけなのに、  
私は女から目が離せない。

結局、

風邪を引いてしまつて……、  
と会社へ電話した。

そして私は、

その日も、

女がカーテンをしめるまで、  
女を見続けた。

女がカーテンをしめると、  
ハッと我に返る。

私は何をしているんだ一体……。  
自己嫌悪に陥る。

そして、眠る……。

翌朝、

やはり、

私はまっすぐ窓辺へと向かう。

そして、

女を見続ける。

あれから何日たったのだろうか。

会社へは行っていない。

外へも出ていない。

電話やチャイムが鳴っていた気がする。

どうだろう。

気のせいかもしれない。

きっと気のせいだ。

ボンヤリとそんなことを考えていたら、

いつもある一点だけを見ているその女が、

フツと、

顔を巡らし、

こちらの方に顔を向けた。

ちよつと視線をさ迷わせ、

私を見た。

女は明らかに私を見た。



そして、

ニヤリと笑った。

私は、

その女をいつも見ている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5342c/>

---

虚構

2011年4月1日14時56分発行